*2015年11月8 日　 第９回　水質・放射能調査フィールドワーク講演会*

演題**「行政が作った環境論議のウソ・ホントはこんなにある ]**

**―このまま放置するなら、われわれも環境破壊者である―**

講師　　東京農工大名誉教授　瀬戸　昌之先生（日の出の森・支える会）

「生ごみの堆肥化は、燃やして埋めるより、割高である」（自治体のごみ対策課の認識）。これホン ト？　このウソを放置するなら、われわれは環境破壊者である。その理由は？

　「農林業は過保護である。TPP（環太平洋経済連携協定）で日本の農林業にカツを入れよう」（自民党安倍政権）。これホント？「ダムは治水と用水確保に不可欠で ある」国土交通省。これホント？

（おまけ）「諫早湾の埋め立ては、優良な農地を造成し、洪水防止に不可欠である」（旧建設省）。エコロジーは環境を… 語る。　（当日のプリントより）

　今日の水質調査の調査結果から、電気伝導度を見てみると、２００８年から２０１５年の数値は、浄化していっていいはずなのに変わっていないつまり相変わらず汚いということです。塩化物イオンの方も歴史的にみても減っているという感じはしないですね。二ツ塚のほうも、きれいになっていないですね。例えば、汚したところから地下水が１０００ｍの間流れるのにどれくらいかかるかというと、５年、１０年という時間がかかるのです。汚染が長い年月かかって出てくる、気がついた時には責任者がいないというそういう世界ですね。処分組合は、データの５００μジーメンスが５０ｍｍジーメンスというように単位を変えて出してきたんですね。つまり、数字が減ってきているような印象を与えているわけです。単位を読まないとだまされてしまいます。

**生ごみの堆肥化は、燃やして埋めるより、割高である？**

コストパフォーマンスをいいかげんに考えると、だーっと行政にやられてします。例えば、生ごみを燃やして埋めるのにどれぐらいかかっていると思いますか？行政の広報では、１ｔ当たり２，３万円なのです。私はごみ処理費が高いなあと思っているけれども、広報的には安いような出し方をしてくるのですが、だんだん分かってきたのは、例えば狛江市などでは１ｔの生ごみを燃やして埋めるのに約１５万円の税金を投入しています。

一方緑の会という茨城の取手の会で生ごみを引き受けて堆肥化して資源化しているところがあります。そこは１６万でやっていて同じくらいだと言えるでしょうが、実は自治体の１５万円の中に国からの補助とか、焼却炉の建設の補助とか、老朽化した時の壊すお金とかは入っていません。これを入れていくと、２０万円を超えていくのです。行政と言うのは、単年度決算ですから減価償却に伴うものは別会計にしてしまので一見単年度では非常に安くやれているような印象を持たせているのです。これではフェアな比較はできないのです。

　今、東京と埼玉の境のところに３０万ｔというパルテノン神殿のような巨大な地下ダムができているのをご存知でしょうか？あるいは、環状７号線の下に直径１２ｍのパイプが入っていて神田川が溢れそうになるとそこに水を入れて、洪水を防ごうということをしているのです。維持管理費を入れないで、１ｔの水を洪水防止するのに地下ダムとか地下のパイプを使うといくらかかるか、そんなことは一切言わないのです。

　例えば、山の中腹の棚田１㎢をイメージしてください。どれくらい雨がしみこみますか？１０００ｍ×１０００ｍで１ｍしみこませれば、１００万ｔでしょう。でも、そこまでいかないだろうから、０．３ｍとして３０万ｔです。これにたいして農家にお金を払っていますか？この３０万ｔの水を土木工学的にいうとどれくらいお金がかかっているかというと、地下ダムに１０００億円かかっています。維持費に１割弱かかっています。そうすると建設を無視しても維持費だけで年間１００億円です。３０万トンの洪水防止に維持費に１００億円かけて意味がありますか？水源の方は、３０万ｔをただでやってもらっているわけです。このへんの評価が、持続可能な社会を適切に選択するときに非常に重要なのですが、まったく無視しているということです。

　家庭から出るごみは、住民税を払っているから、その中でごみ処理をやるということになっているのです。事事業所のごみは、お金を払っていませんから事業者が自分の力で処理にしろというのが建前です。ところが、焼却炉を作り過ぎて余っているので、うちのごみを燃やしてくれと持て行くと持ち込みごみという形で引き受けてくれるのです。いくらぐらいで引き受けてくれるかと言うと、数年前に毎日新聞の小島という記者がごみ問題を追いかけて、それを４００の自治体について調べたら、本来は事業者が処理しなければならないのですが、自治体の焼却場に持っていくと１万円弱です。自治体によっては、ただで引き受けているところもあるのです。４００の自治体の中で一番高かったのは国立で、それでも３万円です。

　さきほどの話で、生ごみ処理に１５万円かかる、持ち込み料を２万円差し引きます。すると、１３万円かかるわけです。そうすると、事業者は１万円だとすると、不足分の１２万円は税金でやっていることになります。我々の税金で本来事業者が払わなければいけないお金を我々が立て替えているわけです。こんなことをやったら、ごみが減るわけがないです。ますます焼却炉を作って利権の構造が固まります。

もっと犯罪的なのは、今民間はいろいろな資源化することをやっています。私が知る限りでも、食品工場から出る生ごみを堆肥化するとか、家畜のえさにするとかいろいろなどいろいろな努力をしています。どうしても３，４万円かかるのです。だから、事業者がごみを持ってきたときに３，４万円払ってくれるなら成り立つけれども、横見たら自治体が１万円弱で引き受けています。そうしたら堆肥化、資源化している企業がつぶれるのは当たり前です。そこら中でつぶれています。

これほど循環型社会が重要だといいながら、ほんとうにそういう企業の立ち上げを私たちは無意識的につぶしていますし、行政は意識的につぶして焼却炉の建設を確保しているという方向に行っています。これを放置しているというのが、我々が環境破壊者ではないかということにつなげているのです。これだけ循環型社会と言っているのに、循環型の企業ができて雇用が生まれるというのにつぶしていて良く言うよと思います。

**農林業は過保護である。TPP（環太平洋経済連携協定）で日本の農林業にカツを入れよう？**

　ＴＰＰで貿易関税をゼロにして、自由に貿易できるようにして、しょうもない食品作っている農家はつぶれればいい、ということです。そして、日本の農林業にカツを入れよう。ここにいくつも嘘があります。

農林業は過保護であると言ったときに、たぶんほとんどの人が、ああ日本の農業はたぶんそうだな過保護なんだなと思うでしょう。アメリカ、フランス、ドイツ、日本、オーストラリア、主要な農業国、韓国も入れて７カ国の調査があるのです。これは、農業にどれだけ税金が流れ込んでいるのかどれだけ農業保護をしているのかというのを見ると、日本は最低なのです。

だから、過保護どころじゃないんです。そして、フランスやイギリスなんていうのは農業の輸出国ですけれども彼らの農業が成り立っているのは、どこで成り立っているのかというとものすごい税金をつぎ込んで成り立っているのです。だから日本の農業が過保護であるというのはとんでもない嘘ですが、そういうことは知らされずに、過保護なんだ、けしからんということになってしまうんです。

これで済むかというと、そういう訳にはいかないのです。例えば棚田のような水田が潰れたら、土砂流土、洪水、国土保全ができなくなる、それを、税金で土木工事をやるとなったらとんでもないお金がかかるわけです。それを払う覚悟であるのかどうか？その上で、日本の農業は過保護であるとか、ＴＰＰはどうだとかということは言うべきではないかと思います。

一農家当たりの政府からの税金の金額が、日本では年間３０万円ぐらいです。オーストラリアやアメリカあたりですと、年間２００万円ぐらいです。２００万円ぐらいだったらなんとか農家もやっていけるけれども、３０万円ではどうしようもないです。それで、過保護だとキャンペーンするのですから、とんでもない話です。

一億総活躍・・・一体あれはなんですか？ＴＰＰを入れることによって、地域が崩壊するというのははっきりしています。そうすると、自民党にとっては、来年の選挙の時にやばいから、ＴＰＰではアメリカに押し切られたけれども日本政府としては農家を応援するぞというためのキャンペーンなんです。

大切なことはＴＰＰに対しては、いろいろな考えがある中で、主義主張がどうあろうとも「持続可能な社会に対して、有効な手立てかどうか」ということでしかないのです。そうすると持続可能な社会のために、例えば高い豚や牛の肉の生産を行う必要があるかどうか？もしあるとすれば日本でしかできない霜降りの肉を生産するということはあるでしょう。

それでは、山の段々畑の水田のところでの米作りを、米が売れないからとやめたときにどうなるか？ものすごい土木保全のお金を払う覚悟があるのか？それがなければ、持続社会は不可能です。そうするとまたダムにいきます。ダムにいったときに国土保全と水行政がうまくいくか？うまくいかない、いった試しがない。アメリカでは、もうダムの建設はやめていますから。日本だけが固執しているのです。日本の場合は１０００億かけても一部の人間が儲けられればやります。これを許していたら、持続可能な社会は次の世代にバトンタッチできないだろうと思います。

**ダムは、治水と用水確保に不可欠であるのか？**

では、八ツ場ダムはどうしますか？４６００億円かけています。まだ本体工事をやっていません。全部終わると一兆円を超えるお金がかかります。東京都とか茨城県、群馬県はもう金を払っています。ダムができると恩恵があるということで、石原都知事の時代に払っています。一方で、アメリカはダムを壊し始めています。それなのに八ツ場ダムは、できあがればメンテナンスに毎年数百億円が必要でしょう。八ツ場ダムは、何が焦点かというと、始めてしまったから、最後まで行かなきゃという話なのです。いっそのことやめて、補償費を払った方がよほどいいのではないか。

１９４６年ですかカスリーン台風で利根川が溢れました。あのレベルの台風が来たらまた溢れるかというと溢れません。なぜか、戦争直後ははげ山でした。でも今は雨が山にしみこむので大丈夫なんです。もう一つは水需要が増えるといいます。いいえ、増えません。むしろどんどん減っているんです。じゃあ用水の確保はどうするのか？地下水が無限にあるのです。日本の全ダムを満杯にしたら２００億トンです。関東平野の地下水は４０００億トンあるのです。全国でしたら１兆トンぐらいきれいな地下水があるのです。どんなに日照りがあったって、ダムに頼らなければ、水は確保できるのです。水をきれいにするように保っておけばいいのです。

では、ダムがあれば洪水は防げるか？防げません。狛江のダムが切れたのが４０年前、あれは夏を迎えるのに小河内ダムに水がいるだろうというので、大雨が予想されていても水を減らさなかった、そうしたら予想以上の雨が降ったので溢れかかっているところへ放流したら切れてしまったのです。そんな程度なのです。そんなのを多目的ダムと言うのですが、とても理想的にはいかないのです。典型的な失敗例です。水の確保も、洪水の防止も、山を豊かにし、水源を豊かにし土に団粒構造※を持たせて土に良くしみ込むようにしたら、洪水は防止できるし地下水も用水も確保できるという、これ以上の持続可能な行政はないと思います。

※**だんりゅう‐こうぞう【団粒構造】**

土壌の粒子が小さなかたまりを形成している構造。保水性に富みながら排水性・通気性もよく、作物の生育に適す。

**諫早湾の埋め立ては、優良な農地を造成し、洪水防止に不可欠である？**

諫早湾をギロチンで埋め立てましたけど、そんなイメージがありますか？

（参加者）まったくの破壊だと思いますね。

ではなぜ埋め立てを行ったと思いますか？

（参加者）ちょっとばかりの農地を作るためです。

もうひとつあります。それは、諫早大洪水があったんです。それで、米余りの時に今更農地とは何事かと言われたときに、「いや諫早湾で大洪水があったから」というのがもう一つの理由なんです。ギロチンで止めて半分ぐらいの水を汲みだすと２０００ｈａぐらいの土地ができるんです。ここで水田をやろうと・・・残りのところに水を貯めておこうと考えたんです。しかし、降った雨がこの形で流れ出るという評価は国土交通省はしていないんです。でも、農水省はこれでやると言っていましたが、建設省もこれは意味がないといったのです。結果はどうなったか？ギロチンで海水を汲みだして、川の水が入ってきて、これでアオコの大発生が起こったのです。海苔が死んだんです。つまり、ミクロキスティス※という原始的な藻類がわいてきたんです。これは毒性の強いものです。それで、海苔が死んだ。

さらに、この水を汲み上げて水田に入れているから、米にこれが入ってきたのです。そうなると維持する意味があるのか？開けろ開けないで国家的にもめているんです。開けないと日の出町も食らったけれども間接強制金一日２０万円、佐賀県は干潟に戻したいと言っているんです。長崎県はやだと言っているので裁判にかけたら佐賀県側に有利になった。長崎はやめないから間接強制金払えということになった。長崎県側も今までやってきているのにやめろとは何かということで訴えているらしいです。

（参加者）どちらにも判決が下りてにっちもさっちもいかなくなっているという状況らしいですね。

つぎに、もうひとつ生態系サービスといって自然の生物がどれくらい直接間接的に人間にメリットを与えているかというメリットを金銭計算することが始まっているんです。そうしないと、金銭で計算する経済学の中に入りこめないからです。干潟１ｈａはどれくらいの魚介類を生んでいるか？という計算で１９０万円と言うのが諫早湾のわずか１００ｍ×１００ｍの中で１９０万円という評価です。

　それでこの米余りの時期にギロチンで維持して意味があるの？やっぱり干潟戻すと干潟の魚介類はただ採りに行けばいいんですから。でも、土地の造成費はお米からは元は取れないんですよ。このへんをしっかり考えておいてほしいんですよ。

欧米ではＴＰＰを嫌がっているんです。つまり多国籍企業が儲かるというところに焦点があるのであって、アメリカの農家ですらＴＰＰは嫌だ困ると言っているんです。なのに、日本では、ほらアメリカがやれと言っているからというような言い方をしているんです。

僕の言っている事と言うのは、知識がなくても、ほんのいくつかの知識を組み合わせるとしゃべれるんですよ。というのは１ｈａ当りどれくらいお米ができますか？１ｈａ当り５トンぐらいです。１㎏は今４、５百円、農家が手放す時は１㎏２００円です。５ｔで１００万円、純益で１０万、２０万なんです。

では、干潟で魚介類を採りに行けば、１９０万円ですよ。何のためにあの大破壊をやったのか？今は、米が余って米の生産が下がっているんです。それで、グルメは魚介類の時代なんですよ。ですから、早めにギロチンを取っ払って諫早湾の豊かな干潟を復活させる方が持続可能な社会になると、言い続けてきたんです。主義主張が違ったら違うことが言えるから、持続可能な社会というのは、どんなに金の亡者でも、貧乏人でもやっぱり維持しないといけないねとなるから、そこから見るんです。

それでずっとこだわっているのは、生ごみを堆肥化するのは高すぎるという意見に同意するというならば、それは循環型社会を作ろうとしている人を踏みにじっているという、犯罪的な行為であるということです。

かつて日本が米の生産をしているときは、１２００万ｔ超えていたのです。今は、８００万ｔでしょう。ところが、ＴＰＰでミニマム７７万ｔは輸入すると言ってしまったんです。そうすると米は維持できないでしょう。米は、日本のような急峻な山地で棚田、段々畑これがあることによって、どれほど国土保全をただでやってもらっていたんです。こういうことに対して、私たちはリスペクトの念がなさすぎると思う。そこでみんなが共有できるのが、持続可能な社会ですから、それをイメージしながらどういう施策がより持続可能な社会に有効かという方向に向かうことが大事です。

※**ミクロキスティス（〈ラテン〉Microcystis）**

藍藻(らんそう)類の微小藻。一つの細胞からなり、ふつう多数が集まって暮らす。[アオコ](https://kotobank.jp/word/%E9%9D%92%E7%B2%89-24117#E3.83.87.E3.82.B8.E3.82.BF.E3.83.AB.E5.A4.A7.E8.BE.9E.E6.B3.89)はこの藻が異常に増殖したもの。

**エコロジーは環境を・・・語る**

エコロジーを勉強してきて、私は嘘だというのに気がついた。それで論文を書いたら、生物屋は全く無視。誰が反論したか？日本の著名な哲学者が何回にもわたって反論してきました。何が言いたいかというと、エコロジーというと環境にいいと思うでしょう？たいていの人は、エコは環境にいいんだと言います。エコカーとかエコグッズとか、その次の展開が全くないでしょう。その理由はなんでしょう？キーワードだけ言うと、エコロジーというのは生物と環境の関係を明らかにする学問です。ただし、理学部の人というのは、「人間」を入れるのを低俗な学問だと思っているんです。だから、生物の中に「人」は入れないんです。入れるとピュアな学問にならないというんです。だから「人以外の生物と環境の関係」これがエコロジーです。今環境の問題で問われているのは何か、「人間と環境」の問題でしょう。人間が主体なんです。人間を登場させないエコロジーが、環境問題を語れるわけがないです。これに延々と１世紀近くみんな誤った論を構築して結果的にどうなったかというと、エコロジーは死んでます。ですから環境科学の中にエコロジーというのが入っていないです。ということは、パラダイムなしの環境科学なんです。めちゃくちゃになっているんです。寄って立つ理論がなくなってしまっているからです。また再構築しなきゃいけない。そういう意味で特に若い人に言いたいのは、学会で良しとされているようなことにはちょっと疑うと非常にいい加減なところがいっぱいあるので、「何をやったらいいか分からない」ではなくて、あり過ぎるんです。ですから、それを見抜いて、持続可能な社会にどのように貢献するのかというところにつなげて欲しいということです。